



サケの豆知識



？ 手取川で放流した稚魚のうち、どれくらい戻ってくるの？

💡 1,000尾のうち3～4尾ほどです。

？ どうやって生まれた川に戻ってくるの？

💡 北の海から日本の近くまで帰ってくる方法は太陽の位置や地球磁場を感知するなどして、帰る方向を決めているという説の他、さまざまな説がありますが、決定的にはわかっていません。一方、近くまで帰ってきたサケが生まれた川に間違えずに帰れるのは、その川の水のおいしさを覚えているからだということが定説とされています。

？ サケを川で釣ってはダメ？

💡 河川でのサケの採捕は産卵期に河川に回帰する親魚や、ふ化して海に降る稚魚を保護するため、法律で原則として禁止されています。このため手取川ではサケの回帰状況を調査するため「手取川サケ有効利用調査」を特別採捕許可のもと実施しています。

？ サケ、マス、サーモンは違うの？

💡 サケは英語でサーモン(salmon)、マスはトラウト(trout)と言いますが、どちらも同じサケ科サケ属の仲間です。生物学的な区別はありません。一般に主に海に生息し、産卵の時に川に上がってくるものをサケ、海に降りず一生川で暮らすものも含めて川での生活が長いものをマスと呼んでいるようです。手取川を含め日本の河川にあがってくるのは、ほとんどが標準和名(学問的に統一した日本語名)サケ(以前はシロサケ、英語でchum salmonとしていた)になります。一方で、養殖サケマス類の生食の流行を機に最近はサケマス類全般を食材としてサーモンと呼んでいるようです。

？ 身はなぜ赤いの？

💡 赤い色素(アスタキサンチン)が、サケの肉に含まれているからです。この色素はニンジン、カボチャなどに含まれているベータカロテンと同じ色素の一種で、甲殻類(エビ・カニ類)の殻に多く含まれており、これらを餌として食べることでサケの肉に取り込まれます。

？ どれくらい卵を産むの？

💡 1尾で2,800～3,000粒くらいの卵を産みます。

？ オスとメスの見分け方は？

💡 通常では見た目では区別することはほとんどできません。ただ、オスは産卵期(川を上る頃)になるとその姿・形が大きく変化するので、容易に区別することができます。産卵期になったオスは、あご(口の先)が長く伸びかぎ状に曲がるとともに大きな歯がむき出しになり、ちょっと怖い顔になります。一方、メスでは変化はなく丸くて優しい顔をしていますので容易に見分けられます。

？ 年齢はどうすればわかるの？

💡 ウロコを見ることによりサケの年齢を知ることができます。ウロコには木の年輪のような線(輪紋)が何本も入っています。輪紋は、定期的に作られていきますが、水温の低い冬は1本1本の間隔が狭くなっており、1本の太い線のように見え、これを年輪と呼んでいます。この年輪の数を数えれば、何回冬を越したかがわかります。手取川に帰ってきたサケであれば、2本の年輪があれば、満3才ですし、3本であれば、満4才となります。

